

木材流通について学ぶ

森のプロに学ぶ森づくり



協力

県森連飛騨林産物共販所

実施日

平成25年11月20日

場所

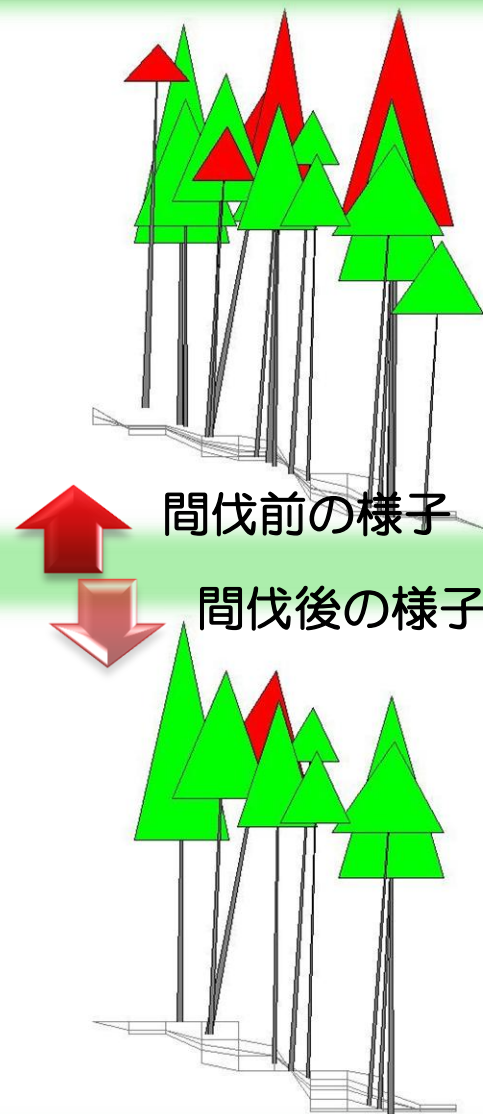
高山市新宮町木の里団地

対象

環境科学科 3年生 4名

間伐に向けた 計画と選木

- ・ 約90年生のヒノキ人工林の間伐計画と選木の検討を繰り返し実施。林分調査データをもとに現地を三次元的に再現し検討。



将来残す木を決める

- ・ 数十年後の森林の姿を描きながら、森林を導く。

伐採実践

- ・ヒノキ人工林の間伐を実践しました。中には樹高30mを超える木もあり慎重に作業を進めました。



造材作業

・造材作業は、木材の価格に大きく影響するため、慎重に行いました。

大丸太

・直径30cm以上

中丸太

・直径14cm以上
・30cm未満

小丸太

・直径14cm未満



市の見学

・自分たちの出荷した木材が、どのように買われていくのか？どのくらいの値がつくのか？どのような材が高値で取引されるのか？貴重な体験となった。



本校の木材出荷総量 約7m³

ヒノキ

6m材：5本

4m材：16本

3m材：17本

2m材：5本

平均材価

¥21,000

アカマツ

4m材：5本

平均材価

¥13,000